

育っていたのが、会津藩の武士、志田貞二郎の三男の四郎でした。慶応二年（一八六六年）生まれですから、戊辰戦争のころは、まだ幼児でした。四郎一家が津川の町に住むようになったのは、四郎が四、五歳のころからといわれています。

津川の町は、現在は新潟県になっていますが、明治の初めまでは、会津の西部を守る重要な町でした。

会津の、広い平地をうるおしている阿賀野川と、遠く御神楽岳から流れてくる常浪川は、津川のアあたりで一つになって、日本海にむかう大河となります。昔は海上交通がさかんでしたので、会津にもたらされる各地の産物は、日本海を渡って、新潟県からこの津川の港に運ばれてきました。

阿賀野川と常浪川がいつしよになるあたりには、いつもたくさんの舟がつながれていて、その近くには、舟を修理したり、つくつたりする舟大工もいま